

1. 題材設定の理由

自分の生き方を考える原点となるのは「自分についてよく知ること」であるが、小学校高学年のこの時期は、自分自身に対する理解・関心が十分とはいえない。また、学級の仲間などにも影響を受けやすく、自分を見つめなおす機会をじっくりもつことが少ない。

そこで、自分の良さを多面的にじっくり見つけ、仲間からの助言や忠告に素直に耳を傾けながら、自分像をより明確にする必要性に気づかせたい。

そして、自分を正しく理解することで更に長所を伸ばすとともに、夢や希望の実現に向けて課題を克服する努力を粘り強く継続させたい。

2. 指導のねらい

自分自身を振り返るとともに、仲間を通して自分像をより明確にし、努力する点と努力の仕方考えることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・①の欄を書かせておく。
本時	・仲間の助言を参考にして自分の特徴について理解を深めさせる。
事後	・努力目標に向けての取り組みを見届ける。 ・仲間の良さを通信等で紹介する。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・自分の1学期の活動を客観的に振り返ることで、自分を更に高めることが大切であることがわかる。	◎自分の生活面や学習面で努力していることなど、自分の特徴について具体的な事実をまとめ、それをもとに発表する。 (例) 「1学期、自分自身ががんばったことを発表してください。」 「僕は1学期に授業中の発表をがんばりました。」 「わたしは係の仕事をしっかりやりました。」 「5年生になってだれとでも仲良くして生活することができた。」	・自分の良い点、努力した点を中心に考えさせる。 (例) 学習、生活の様子について、◎, ○, △で自己評価をさせる。自分で評価させるのであまり細かい基準を決めない。	ノート① ・教育通信やその中の「性格行動の様子」などの諸事項の記録
課題：高学年になった自分の1学期の宝物を見つけよう。				
中心的な活動	・自分を振り返るとともに、仲間を通して自分像を知り、自分の良さ(特徴)がわかる。	◎班交流を行って「仲間から見た良さ」についてまとめる。 〔班交流〕班長が司会をして、具体的な事実をもとに班員の良さについて出し合う。 ・「よく図書館の本を借りて読んでいたよ。」 ・「5年生になって字が上手になった。」 ・「いつも大きな声であいさつをしていた。」  ◎班交流で出されたものをもとにまとめる。	・仲間の良い点を認め、励ます話し合いができるように配慮する。 ・班内で回覧して、お互いに記入する方法も考えられる。 ・仲間の成長を考え、改めた方がよい事項があれば出させる。	ノート② ・自己理解を深める検査の活用 (例) 適正検査等
まとめ	・自分の宝物を確認し、更に努力する点とその方法を考え、実行しようとする決意をもつことができる。	◎仲間の助言から、「自分の良いところ、宝物」について考える。 ・自分の考えをまとめる。 ・自分の考えを発表する。 ・目標を書く。 ◎先生の話聞く。	・自分の反省の相違点に目を向けさせ、語らせる。 ・これまで気づかなかった自分の良さについて考えさせる。 ・自分の良いところ＝宝物であることに気づかせる。	ノート③ ノート④